

パブリックコメント意見募集の結果公表

第4次帯広市食育推進計画（原案）に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と市の考え方は下記のとおりです。ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

寄せられたご意見等について検討した結果、第4次帯広市食育推進計画（原案）の修正は行わず原案どおりとして策定することとしました。

【意見募集結果】

案 件 名	第4次帯広市食育推進計画（原案）		
募 集 期 間	令和4年11月25日（金）～ 令和4年12月26日（月）		
意 見 の 件 数 （意見提出者数）	16件（4人）		
意 見 の 取 り 扱 い	修正	案を修正するもの	0件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	8件
	参考	今後の参考とするもの	5件
	その他	意見として伺ったもの	3件
意 見 の 受 け 取 り	持参		0人
	郵送		0人
	ファクス		0人
	電子メール		4人

【意見等の内容】

No.	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
1	「食育推進サポーター」という存在が、市民に認知されていないと感じる。もっと広く周知して、市民に利用して欲しい。	1	<p>【既記載】</p> <p>食育推進サポーターは、本市の食育を推進するうえで重要な役割を担っています。</p> <p>近年、おびひろ市民学との連携により活用件数は増加傾向にあります。市民に対する認知度は、16.6%にとどまっていることから、「第4章 施策の展開について 4 横断的な食育の推進」に記載しているとおおり、あらゆる機会を通じて食育推進サポーター制度の周知を行ってまいります。</p>

No.	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
2	<p>「畑作4品」という言葉や内容を学校などで教えているのか。学ぶ機会がないと目標達成は難しそうだと感じる。</p>	2	<p>【既記載】 第4次帯広市食育推進計画より「畑作4品を知っている児童・生徒の割合」を新たな指標として加えました。 「第4章 施策の展開について 2 学校、保育所等における食育の推進」に記載しているとおり、これまでも市内小学3年生を対象に農業技術センターのほ場で栽培している畑作4品をはじめとした農作物について学ぶ機会を提供しています。 指標の目標達成に向けてこれまでの取組を継続するとともに、新たな取組も検討してまいります。</p>
3	<p>第4次帯広市食育推進計画は健やかに生きてゆくための素晴らしい取り組みだと感じるが、実際に市民への浸透は低く感じる。 帯広市として「食育」とは何を目指しているのか、食育推進サポーターの取組が「食育」へ繋がっているのか、実際に小学生と中学生の子どもを持つ身として感じた。</p>	1	<p>【参考】 「第3章 計画の基本的な考え方について」に『すべての市民が生涯にわたって「食」に関心を持ち、健全な「身体」と豊かな「心」を育み、食の魅力があふれる元気な「地域」を目指します』という目指す姿の実現に向けて、3つの基本方針のもと様々な取組を進めてまいります。 計画には成果や達成度を把握するために10の指標を設定しており、その中には食育に関心を持っている市民の割合を掲げ、市民の食育への取組等の促進を図っていきます。 食育推進サポーターの活動は、農業者や栄養士など食に関する知見を持ったサポーターが講師を務めることで学校等において実践的な食育活動を行うことができるため、こうした取組が多く为学校に広がるよう食育推進サポーター制度の周知を行ってまいります。</p>
4	<p>食育推進にあたっての指標では、全体的に目標値の高さが気になる。 食事を家族などと一緒に食べる児童・生徒の割合の目標値が100%でなければならないという点が疑問。家族の形の多様化や働き方の多様化等を背景に、それぞれのご家庭・個人が各々の事情を抱えていると思うが、目標値を100%とする事は、帯広市が目標とする食事の姿がはっきりと見えているようで、少々やりすぎの様に見える。 また、食事を家族でとることができなくても食への関心が低くなるとは限らない。食育推進計画の目標とする指標として用いる理由が分からない。</p>	2	<p>【その他】 指標については、これまでの本市の取組結果や国や道の指標などに基づき設定しています。 「食事を家族などと一緒に食べる児童・生徒の割合」については、ライフスタイルの変化により、毎食家族全員で食事をするのが困難になってきていますが、食事を誰かと一緒に摂ることで食の楽しさを実感するだけでなく、食や生活に関する基礎を伝え、習得する機会にもなることから共食の大切さを啓発してまいります。</p>

No.	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
5	<p>学校等での食育の推進として通信の配付よりも、実際に現場に行く体験や、授業内での食育講演（オフライン・オンライン共に）などを望む。</p> <p>実際に特別講師が学校に来て行った食育授業は、子どもの心にとても残っているようだ。</p>	1	<p>【既記載】</p> <p>学校等において、体験活動を通じた食育体験は子ども達にとって、学習の定着に有効と考えています。</p> <p>「第4章 施策の展開について 2 学校、保育所等における食育の推進」に記載しているとおおり、食育活動を担う関係者と連携しながら、農作業体験や調理体験など様々な体験活動を実施してまいります。</p>
6	<p>食事の質や内容だけではなく、環境や背景を含めた「食育」が進むことを願う。</p>	1	<p>【既記載】</p> <p>食育は、栄養に関することをはじめ、規則正しい食習慣の形成、食べ物や食に関わる人への感謝の心、生産から消費までの食の循環や環境への正しい理解など、幅広い分野にわたります。</p> <p>「第4章 施策の展開について 4 横断的な食育の推進」に記載しているとおおり、誰もが「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できるよう、市民、学校・保育所、生産者、食品関連事業者、保健医療関係者、行政等がそれぞれの役割のもと連携を図り、横断的に食育を推進してまいります。</p>
7	<p>食育への無関心層の増加の理由で「生活に困らない～食育イベントの中止・縮小などの影響～無関心層への働きかけの機会が減少」などを掲げているが、これらに限らず食をめぐる情勢の変化もあると思う。無関心層への取組は更なる工夫が必要ではないか。</p>	1	<p>【既記載】</p> <p>食育への無関心層の増加に対応するため、「第4章 施策の展開について 4 横断的な食育の推進」に記載しているとおおり、様々な情報発信やイベント等を通じて、市民の食育に対する関心を高めていく必要があると考えています。</p> <p>既存の取組に限らず、オンラインを活用した食育活動など食をとりまく環境の変化を意識した食育を推進してまいります。</p>
8	<p>本文ではSDGsの観点で「～本市の地域特性を活かしながら、持続可能な食料生産から消費までの食の循環、食と環境とのかかわりを正しく理解してもらうための取組を推進します」としているが、SDGsは本計画でも注釈を付ける必要があるほど一般人には難しいので、SDGsの観点とは何かと「食を大切にすること」の取組は分かりやすくする必要はないか。</p>	1	<p>【既記載】</p> <p>SDGsについては近年、学校での授業やテレビCMなど様々な媒体に取り上げられていることもあり市民の理解は進んできているものと考えています。</p> <p>「食を大切にすること」取組としては、「第4章 施策の展開について 1 家庭における食育の推進」に記載しているとおおり、食品ロスの削減などの身近なことから実践できる取組の啓発を行ってまいります。</p>

No.	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
9	「計画の進捗管理については、指標値により推進状況を把握し、庁内の関係部署で構成する『食育推進委員会』において行います。」とあるが、食育推進委員会の開催や協議内容の公表などについて更に検討が必要ではないか。	1	<p>【参考】</p> <p>これまでも、食育に関する活動内容等についてはホームページ等に掲載しています。</p> <p>食育の取組の進捗状況を市民に周知するという観点から、ご意見の趣旨は計画を進める上での参考とします。</p>
10	「食育に関係する各部署が横断的に連携し、～保育、教育、健康、農業等様々な分野における施策を総合的・計画的に進めていきます。」とあるため、計画のとおりそれぞれがつながることができる場を設けながら食育活動を行なってほしい。	1	<p>【既記載】</p> <p>食育推進委員会は、保育、教育、健康、農業等様々な分野の関係部署で構成されています。</p> <p>「第5章 計画の推進体制と進捗管理について 2 食育推進にあたっての役割」に記載のとおり、庁内の関係部署が横断的に連携するとともに、食育推進サポーターをはじめとした関係団体等とも連携して食育を推進してまいります。</p>
11	帯広市議会では「帯広市食育推進条例」を令和5年4月1日から施行するため、食育推進計画と食育条例間の相互の調和が不可欠だと思う。	1	<p>【参考】</p> <p>帯広市食育推進条例では、食育に関する基本理念を明らかにし、本市が有する豊かな自然や食、農業などの地域資源を最大限に活かしたまちづくりを進めている中で、すべての市民が一丸となって食育に関する取組を推進していくために制定されたものです。</p> <p>その中には、「市は、食育に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、食育基本法の規定により、帯広市食育推進計画を策定するもの」と位置付けられており、本市としては、この条例に基づき食育推進計画を策定し、近年の食育をめぐる現状と課題を踏まえ、関係部署や関係団体等と連携しながら食育を推進してまいります。</p>
12	食育推進計画は全国的には健康や保健関係部門で策定されると思うが、帯広市は食を基盤とした農政部が策定しているため、生産者や農協と一緒に頑張ってほしい。	1	<p>【その他】</p> <p>十勝・帯広は農業を地域の基幹産業としており、安全・安心で良質な農畜産物が生産されている環境が身近にあります。</p> <p>こうした地域特性を活かした食育を総合的に展開するため、生産者や農業団体等の協力を得ながら取組を進めてまいります。</p>
13	若年層は他世代に比べ、農業体験をした経験値も高く、特に20代は調査世代の中でトップ。これは、今までの市の施策の中で行われてきたことが結果に反映されたものと捉えることができるのではないかと。	1	<p>【その他】</p> <p>農作業体験をしたことがある市民の割合については、目標を達成しており、特に20歳代では他の世代よりも高い数値となっています。</p> <p>この要因はこれまでの継続した取組の成果によるものと考えています。</p> <p>今後も取組を継続し、農業や食産業への理解促進に努めてまいります。</p>

No.	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
14	<p>子育て世代となる 30～40 代が食育に対して関心が高くなることは必然的。一方で、若年層は朝食の欠食や栄養バランスの偏りに関しては数値が低いのも事実。</p> <p>関心があっても実施できていないことに関して、現在の食育推進計画のアプローチでは手薄に感じるとともに現状のアンケートでは十分に現状を把握できていないように感じる。</p>	1	<p>【その他】</p> <p>現状を把握するため、幅広い年代へのアンケート調査のほか、若い世代や子育て世代に対するヒアリングを実施してまいりました。</p> <p>食育に関心があっても実施できていない市民に対しては既存の取組の改善や新たな取組の検討などを行いながら食育を推進してまいります。</p>

【案件の最終案】

別紙のとおり